

平成 1 4 年度公共事業の再評価に関する意見書
（都市公園事業 宝が池公園）

平成 1 5 年 3 月 1 7 日

京都市公共事業再評価委員会

平成 15 年 3 月 17 日

京都市長 榎本 頼兼 様

京都市公共事業再評価委員会

委員長 佐佐木 綱

公共事業の再評価に関する意見の提出について

京都市公共事業再評価委員会（以下「本委員会」という。）は、京都市が実施する公共事業の再評価について、客観性及び透明性を確保するため、第三者としての意見を述べる機関として、平成 10 年 12 月 25 日に設置された。

本委員会は、今年度既に 9 事業について審議し意見を述べてきたところであるが、都市公園事業については、平成 14 年 4 月「行政機関が行う政策の評価に関する法律」の施行に伴い「国土交通省所管公共事業の再評価実施要領」の運用が変更され、事業費の予算化を起算点とする再評価の実施が求められることとなったため、宝が池公園（以下「本事業」という。）の再評価が必要となり、今回審議を行うこととなった。

審議の結果、本委員会の本事業に対する意見を下記のとおりとりまとめたので提出する。

今後、京都市においては、本委員会の意見を参考として再評価を進めていただくとともに、公共事業の推進に当たっては、効率性及び実施過程の透明性の一層の向上に努められるよう求めるものである。

記

都市公園事業 宝が池公園についての意見

本公園は、左京区上高野、松ヶ崎、岩倉地区にまたがり、宝が池を中心に周辺の自然環境を生かした都市防災、スポーツ、レクリエーシ

ョン，自然教育，憩い等多様な機能を有し，市街地に隣接する山や池等自然を背景にした広域公園であり，また，災害時における広域防災拠点となる防災公園の機能も有する。

本事業は昭和４９年度に公園区域全域が事業採択され，広大な公園のため数エリアに分割し，用地買収，工事に着手され，憩いの森，桜の森，北園，スポーツ広場等順次整備が行われ，現在約６２．７ｈａを開園している。

市街地における緑地の必要性がますます高まるなか，広大な自然を背景にした宝が池公園は，市民の憩いの場，子供の遊び場等，多様な公園機能を提供することや，ワークショップによる整備基本計画策定時においても市民の関心度及び整備を望む声が高かったことなどから，「事業継続」は妥当であると判断した。

都市公園の不足する京都市においては，宝が池公園事業は重要な事業の一つであり，非常に厳しい財政状況の下ではあるが，京都市にとっての必要性，事業意義を考えると，本事業が着実に進捗するよう重点化を図る必要がある。

また，事業を進めるに当たっては，このような自然を生かした公園の場合は，自然と親しむ観点から整備することが必要であり，中長期的な視点に立って整備していく一方，施設の安全性に課題があるものについては早急に対策を講じる必要がある。

なお，費用便益分析手法自体が開発途上であり，審議の仕方として単独の事業だけでみるのではなく，他の事業との相対的な評価の視点も合わせた評価方法も検討するべきである。



参 考 資 料

- 1 京都市公共事業再評価委員会委員名簿
- 2 京都市公共事業再評価委員会審議日程

1 京都市公共事業再評価委員会委員名簿

	小野山 正彦	京都新聞社論説委員長
	小林 慎太郎	京都大学大学院地球環境学堂教授
委員長	佐佐木 綱	京都大学名誉教授
	下野 惲子	京都商工会議所女性会副会長
副委員長	徳岡 一幸	同志社大学経済学部教授
	町田 玲子	京都府立大学人間環境学部教授
	安本 典夫	立命館大学法学部教授
(五十音順，敬称略)		

2 京都市公共事業再評価委員会審議日程

区分	開催年月日	審議内容
第6回	平成15年 2月 7日	・都市公園事業 宝が池公園